

# 歴史ある空間を後世に

## 県営野球場をデータ保存 あさぬま土地家屋調査士法人など

盛岡市本宮に本社を置くあさぬま土地家屋調査士法人(浅沼智之代表)と、同法人が測量技術を一般向けに提供するために設立したMworks(浅沼智之社長)が、今年度で閉場する同市三ツ割の県営野球場をデータ保存する取り組みに着手している。3Dレーザースキャナーを用いて測量、撮影を行い、球場の景色を立体的にデータ化。多くの人が愛着を持つ球場を後世に残そうと、積み重ねてきた老舗の仕事と最新技術を駆使する。



3Dスキャナーを用いて、県営野球場のデータ保存を進める浅沼代表

同法人は1952年に、浅沼代表(43)の祖父の長治さんが土地家屋調査士・司法書士事務所として開業。以来70年、3代にわたる境界測量などで不動産関係やハウスメーカーの依頼、公共事業などを請け負っている。昨年、県から同球場の土地の測量の依頼を受けた際、無償でデータに残すことを提案していた。

28日に測量、撮影を開始。測量用の3Dレーザースキャナーは普段、点群データを取って図面を作成するために用いており、今回はその点群データに写真を貼り付けて、球場内の風景をリアルに保存する。グラウンドやスタンド、敷地内など約500カ所、1カ所2分ほどの撮影と測量の作業を行う。

完成したデータは、編集やチェックを経て、県や同法人のウェブサイトで公開予定。データ化して残すことで、将来的に仮想空間メタバース化などの活用も見込める。例えば、ゲーム用ソフトウェアによって、仮想空間上の県営野球場での試合開催なども、理論上は可能になる。

浅沼代表は「盛岡、岩手という地方だからこそ貴重なデータが取れるのでは。土地をどう使うか、その元になること。測量がすべての始まりで、いままでの歴史とやっつけていることは同じと胸を張る。浅沼代表自身にとっても、同球場は、高校時代の野球応援やプロ野球観戦で訪れていた



献上箱  
誌上

思い出の場所。この球場に思いを寄せてきた人に、記憶を資料として残したい。未来の子どもたちに、大谷翔平選手や菊池雄星選手らが投げた球場を見せることで、岩手から次のスターが出てくれたら」と思いを込めた。(紺野亮)

盛岡  
タイムス

発行所 株式会社盛岡タイムス  
〒020-0015 盛岡市本町通3丁目  
電話(代表)019-653-  
購読料:月決め 2,260円

きょうの紙面 グルージャ  
21年政治資

学校法人 北日本  
星北高等  
平成31年4月「北日本高等」  
★不登校傾向の生徒さん、お  
〒028-3613 矢巾町北矢

ガス機器はもちろ  
WEBでかんた  
モリガスであん  
盛岡  
WEBシ

天気図内のマークは今日の全国の子報  
28日9時予想図  
高  
低  
1012  
120° 130° 140°  
ポイント予報